

第3期 第4回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会議録

- 1 会議名 第3期 第4回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
- 2 日時 令和4年1月13日（木）午後6時から7時
- 3 会場 Web会議（Zoom形式）
- 4 出席委員 石島委員、石橋委員（副会長）、伊藤委員、井上委員、大坪委員、工藤委員、齋藤委員、佐瀬委員、鶴岡委員（会長）、檜垣委員、滑川委員、村上委員、湯原委員  
以上13名
- 5 欠席委員 石塚委員、磯崎委員、五明委員、時任委員 以上4名
- 6 オブザーバー 森田障害福祉課長、浦山健康課長、中谷保険年金課長
- 7 事務局 田中介護福祉課長、原田地域ケア係長、水村主査、柴田主任
- 8 傍聴人 なし
- 9 次第 第3期 第4回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会

1. 開会

2. 報告

(1) 今年度実施済みの多職種研修について

- ①東京都地域連携型認知症疾患医療センター前田病院主催分
- ②東久留米市在宅療養相談窓口主催分
- ③東久留米市医師会主催分

(2) 東久留米市在宅療養相談窓口の活動について

3. 議題

(1) 今後の多職種研修会について

- ①東久留米市在宅療養相談窓口主催分
- ②東久留米市医師会主催分
- ③東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会主催分

4. その他

①各専門部会

- ・医療・介護関係者の情報共有（ICT等）専門部会
- ・24時間診療体制確保部会

②今後の予定について

## 1.0 配布・参考資料一覧

【資料1】今年度実施済みの多職種研修について（報告1）

【資料2-1】東久留米市在宅療養相談窓口・相談業務報告書（報告2）

【資料2-2】医療的ケア対応、治療食、看取り等状況アンケート（老健）

【資料2-3】医療的ケア対応、治療食、看取り等状況アンケート（通所）

【資料3】今後の多職種研修会について（議題1）

【資料4】映画『いのちの停車場』上映会企画案

## 1.1 第3期 第4回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会の開催

### 1. 開会

### 2. 報告（要点のみ筆記）

#### （1）今年度実施済みの多職種研修について

【会長】資料1に沿って各委員より報告を願いたい。まずは、東京都地域連携型認知症疾患医療センター前田病院主催分について報告を願いたい。

【委員】令和3年11月11日（木）18時30分～20時に講演会及び質疑応答にて実施した。内容は富田先生より「認知症の危険因子と予防について」、前田センター長より「自験例から今、認知症患者ケアに必要なことを考える」であった。申込者は60名で51名が参加し、内訳はケアマネ23名、介護職6名、看護師3名、薬剤師1名、相談員7名、医師3名、心理士2名、保健師1名、管理者1名であった。アンケートより「大変よかった」19名、「よかった」25名、「普通」2名、「よくなかった」0名という結果であった。理由としては、「具体的な食事メニューの話が参考になった。」「水頭症について知る機会がないので貴重だった。」という意見があった。また、感想では、「後半の事例はもっと突っ込んで長い時間やってみたかった。」「コロナ渦でグループワークができず残念、グループワークの方が声を出しやすい。」「コロナ渦による対面研修が行われなくなり、研修学習の質に変化を感じていたが、久しぶりに熱気のある研修に参加できて嬉しかった。」という意見があった。今後取り上げてほしい内容としては、「グループワークがしたい。」「最新の認知症の研究を素人にもわかり易くかみ砕いて伝えてほしい。」「認知症が進んだ方の問題行動が増えて困っているのので、テーマとして研修をしてほしい。」という意見があった。

【会長】次に東久留米市在宅療養相談窓口主催分について報告を願いたい。

【委員】日本赤十字社 医療センター精神看護専門看護師 曾根原先生より「病院で・地域で出会う 関わりが難しい方へのアプローチ」をテーマに精神に課題のある方と関わる時の共感疲労などの支援者の心のあり様、つかず離れずの距離をとり、関係者で情報共有した上でそっと

見守ることが必要な方について等の講義を実施した。オンライン形式で定員80名のところ応募が多数あり、何名かで一緒に見ていただく等の協力をいただいた。アンケート結果は資料2-1を参照していただきたい。参加者としては主にケアマネジャー、病院の退院支援部門、訪問看護、調剤薬局の薬剤師であった。周知へのご協力に感謝したい。併せて、通所介護の管理者、施設ケアマネジャー等、普段参加されない職種の方にも参加いただき、幅広い分野で困っている、どうにかしていきたいと考えているテーマであることを改めて感じた。

【会 長】次に東久留米市医師会主催分について報告を願いたい。

【副会長】本協議会と共催し、11月30日(火)に「新型コロナウイルス感染症対応講演会」を開催した。オンライン形式で、参加者124名と多くの方に参加いただき、感謝したい。テーマ・講演内容の1つ目は「新型コロナワクチン最新情報」で厚生労働省 厚生科学審議会委員 予防接種ワクチン分化会委員 順天堂大学 客員教授 伊藤澄信先生より「ワクチンは一体どのようなもので、どのように作られていて、どの効果を持っているか」とことで、若干難しい内容であったとの感想もあったが、詳しく話をいただいた。現在、使用されているファイザーのmRNAワクチンがどうできあがり、それ以外のワクチンもどのような形で作られ、開発されていくのかをお話いただいた。時間としては1時間弱で、介護関係の方には少し難しかったかもしれないが、我々を守ってくれるワクチンがどのように働いてどのように作られるのかがよくわかったのではないと思われる。続いて2つ目は今後の東久留米市におけるワクチン追加接種スケジュールについて私より話をさせていただいた。無接種の方への対応、1回接種者への対応、COVID-19感染者への対応、3回目の追加接種、5歳から11歳の接種等についてその時点で分かっている情報をお伝えした。東久留米市においては、12月から医療従事者、一部の介護従事者へ3回目のワクチン接種を開始し、1月初頭からは医療・介護従事者、高齢者介護施設、高齢者の接種を進めている。個別接種が主で、第1回目の集団接種は1月15日、16日の2日間で予定されている。すでに17,000人の方に接種券が配布されており、施設入居者、医療介護従事者それ以外の方を含め、おおよそ1か月に2万人くらいに接種していく予定である。東久留米市では、1週間で最大5,000名の個別接種能力があり、机上だと1か月に最大稼働させて20,000名に接種できるという計算になるが、実際には1月に最大15,000名に接種するという試算で予定している。前回の接種より6か月経過しないと3回目を接種できないため、1月には6月までに接種済みの方が接種している。2月に入ると7月接種の23,000名に順次接種券が送られる予定である。個別接種は現時点で主にファイザーであり、2月までは1回目、2回目をファイザーで接種した方には3回目もファイザーの予定である。希望があれば、1回目、2回目をファイザー、3回目をモデルナの交差接種も可能である。交差接種の方がファイザーを3回接種

するよりも効果的であるというデータも出ているため、3回目にモデルナを接種するのによいと考えられる。介護従事者の方々には、できれば1月中に近隣の医療機関で接種の予約をしていただきたい。また、希望のあったすべての施設の方々には担当の医療機関が決定したため、相談の上、できれば1月中、遅くとも2月初旬までに3回目の接種を終わらせるように予定を組んでいただければと思う。オミクロン株の感染者数が非常に増えている。残念ながら、ブレイクスルー感染もあり、ワクチンを打っていれば安心というわけではないが、重症化については圧倒的に予防ができることがわかっているため、ぜひ接種を進めてほしい。高齢者の中でリスクが高い方には中和抗体治療も可能である。また、若干性能は落ちるが、経口薬治療など含め東久留米市は対応方法を決めているので、かなりきちんとした対応ができると考える。わからないことや困ったことがあった場合は東久留米市医師会事務局または私まで質問いただきたい。

【会 長】前田病院の認知症研修、在宅療養相談窓口の多職種研修、医師会での研修や3回目のワクチンについての貴重な情報提供をいただいた。これまでの報告に対し、感想や意見を伺いたい。

【委 員】研修には参加していないが、介護職員として貴重な情報をいただき、感謝したい。

【委 員】コロナ渦での興味は、医師会の新型コロナウイルス感染症対策の研修であったと思う。介護従事者にとって前半の内容は非常に難しかったが、後半の市内のワクチン接種方法の動向等については非常にためになった。職員に研修内容を伝達すると3回目のワクチン接種に対して安心した気持ちになれたという意見が多くあり、とてもありがたい研修であった。

【会 長】報告から対面やグループワークを希望する声も聞こえてきたため、今後企画していただけたらよいと思う。

【副会長】在宅インテグレーター養成研修について追加報告をさせていただく。どのように在宅ケアを進めたらよいか？という内容の研修であり、有料であるため、研修費用を医師会が補助する事業となっている。申し込み状況は4名の参加がある。枠がまだあるため、インターネットで在宅インテグレーター養成講座を検索いただき、興味があればぜひ参加を願いたい。また、介護手法であるユマニチュード研修会の参加費も補助している。こちらはお金と時間もかかるため、大変だと思うが、よければ参加してほしい。

## (2) 東久留米市在宅療養相談窓口の活動について

【会 長】続いて、資料2に沿って東久留米市在宅療養相談窓口の活動報告について委員より報告を願いたい。

【委 員】相談業務について件数は概ね例年通りである。相談手段では、来所、訪問が減少傾向にあり、感染症の影響が原因であると考えられる。新規相談について居住地別件数は概ね東久留

米市在住、またはご家族が市内在住の方からの相談である。専門職からの相談として、悪性腫瘍末期で困っているというケースはほとんどなくなっている。年に1～2件のペースだが、40歳以下の悪性腫瘍の方の相談がある。介護保険利用不可のため、社会資源が限られており、相談がなくとも困っているケースは一定数あるのではないかと思う。認知症・精神疾患については、他疾患との合併により対応を難渋されているケースが散見できる。精神科の往診、訪問診療に関するニーズは大変高いが、提供できる社会資源が少ないことは継続した地域の課題であると思われる。相談内容は、全体的に面会制限を受ける入院を避けたいという意向がベースにあった。医療的デバイスのある方の利用できる社会資源について情報提供をお願いしたいという希望は変わらずあるため、アンケート調査などを実施している。経口摂取が難しくなった時の胃ろう、CVポートに伴い、在宅療養継続なのか入院なのかのACPに関連する相談は継続しており、専門職、市民ともに引き続きACPについての理解を深めていく必要性を感じる。情報収集、情報提供業務の部分では、市内近隣市の介護事業所（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、デイサービス、デイケア、ショートステイ）の計332事業所に対し、特に医療依存度のある方の受け入れに関するアンケートを8月～9月に実施した。新型コロナウイルス第5波の最中であったため、回収率30%前後と少ないが、大変な中で協力いただいたデータのため、関係者が利用できるように在宅療養相談窓口ホームページ更新時にアップしていきたい。また、個別相談時にも活用するため、必要時にはご連絡いただきたい。在宅医療体制づくりのための連絡・調整業務については、引き続き継続していく。多職種研修業務については、すでに報告したとおりである。今後実施予定分については後ほど報告予定である。昨年度実施した「身寄りのない方の支援」についての第2弾を実施予定である。普及啓発業務については少人数対象で「わたしの覚え書きノート」を一緒に書いてもらうという内容の市民向け在宅療養シンポジウムを開催した。好評であったため、引き続き感染症対策を徹底した上で実施していきたい。

【会 長】 質問や感想があればお願いしたい。

【委 員】 曾根原先生の多職種研修「病院で・地域で出会う関わりが難しい方へのアプローチ」に参加し、具体的な助言等をいただけて大変参考になった。コロナ渦でなかなかスタッフと一緒に研修を聞ける機会が持てないため、伝達研修にはなるが、今後Zoom等になった際はスタッフがもう少し聞けるように環境を工夫することが必要だと感じた。

【委 員】 在宅療養相談窓口にはいつもお世話になっている。一つの病気でなく、認知症とがん末期のような複合的な様々なケースがあるため、その度に相談している。いつも親身になって一緒に考えていただけるので地域包括支援センターとしては本当に心強いと思う。また、研修は自

身にとってもカウンセリングのようで染み渡り、よい研修だった。

【会 長】非常によい研修であったとのことで、貴重な声に感謝する。

### 3. 報告

#### (1) 今後の多職種研修会について

【会 長】資料3に沿って今後の多職種研修会について各委員より説明を願いたい。まずは、東久留米市在宅療養相談窓口主催分についてお願いしたい。

【委 員】身寄りの無い方の対応の第2弾として、「身寄りのない方が亡くなった場合の葬祭・埋葬」をテーマに実施する。オンライン形式であるが、今までのように講義中心ではなく、人数を絞り、グループワーク形式を取り入れたいと考えている。

【会 長】次に東久留米市医師会主催分についてお願いしたい。

【副会長】昨年は、「新型コロナウイルス感染症介護事業者向けオンライン研修会」を希望の事業所ごとに開催した。希望はそれほど多くなかったため、今年はどうしようかと考えている。新型コロナウイルスがどういうものかについてあまりテーマを絞らず、質問を受けながら一緒に話ができる内容で実施しようかと考えている。現時点で医師会中心に組み立てている在宅療養者支援の東久留米体制について医療・介護の方に話をしたい。事業者ごとのオンライン研修会の開催は難しいため、11月開催分と同様の形式で、質問を受けられるように30名程度の人数で2月初旬より開催したい。ユマニチュード研修会はまだ参加できるため、ぜひ参加いただきたい。また、介護に関する講談を5か所の特別養護老人ホームで開催したいと考えていたが、新型コロナウイルスの影響で開催が難しくなった。大変残念ではあるが、講談をオンラインで実施するのは寂しいので、今回の開催は難しいと考えている。

【会 長】続いて、事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】資料4を参照。在宅療養を考える映画「いのちの停車場」鑑賞と座談会については、副会長より本協議会の中で在宅療養ガイドブックや在宅療養の普及啓発を目的とした企画の提案があったため、検討の上、議題にあげた。令和4年2月26日午後に実施を検討しているが、開催時期は今後の感染状況によって延期の可能性もある。また、医療・介護の安全については、令和元年度に企画していたが、新型コロナウイルスの影響で実施できていなかった。テーマは「在宅におけるケアの安全～事故防止・緊急対応・個人情報保護の理解～（仮）」で考えている。コロナ渦で介護施設等での重大事故も増加しているため、令和4年3月に人数制限のもと対面等での実施を企画としている。

【会 長】今後の多職種研修についてはメインの議題になるため、ぜひ委員の方の意見を伺いたい。

【委員】以前、独居、生活保護、身寄りがいない方が居住しているアパートの大家さんより本人が亡くなった後に困っているとの相談があり、対応が大変になったことがあった。在宅療養相談窓口主催「身寄りのない方が亡くなった場合の葬祭・埋葬について」の研修会では、事例や介入内容等は含まれるのか。

【委員】詳細は検討途中であるが、身寄りのない方が亡くなられた後、実際にどのようなことが行われているかを講義いただき、その上で生前に防ぐためにどのようなことをしていくのかをグループワークで検討していく。片付けの問題、死亡届の届出人等、具体的に日々苦勞している情報を共有していきたいと考えている。

【副会長】映画については、現在の感染状況だと2月26日の開催は難しい。感染状況はおそらく来週、再来週あたりがピークであると予想している。オミクロン株は急峻な流行であり、1～2週間で急激に増えていく。逆に収まっていく期間は、第5波のデルタ株の時で大体3か月かけてだったが、オミクロン株の場合は1～2か月、日本も2月中にはなんとか収束するのではないかと予測している。そのため、2月中に開催するのは難しい。せっかく素晴らしい映画を皆さんと一緒に観る機会であり、単に観るだけでなく、会長の鶴岡先生と檜垣先生との座談会も企画しているため、ぜひ市民の方に在宅療養について考える機会を提供したい。3月に延期したいが、会場の空き状況の都合により、平日で検討している。

【委員】この時期にZ o o m形式でない座談会ができたならうれしく、ぜひ参加したい。時期的にチラシを配ることすら躊躇されるのではと察しているが、大変よい研修になると思うので、是非開催されることを希望し、進めていただきたい。Z o o mのよさはあるが、しっかり皆さんと顔を見ながら話すという座談会に心が動いた。

【委員】在宅療養相談窓口の研修は特にケアマネジャーから大変好評であるため、今後も継続してほしい。映画「いのちの停車場」鑑賞と座談会は非常によい企画で、すでに話題になっている。時期的な難しさはあるが、ぜひ開催してほしい。また、鑑賞会と座談会に留まらず、更に在宅療養を考えるきっかけになればよいと考えている。

【委員】年末年始から新型コロナウイルスの感染者が爆発しており、映画等素敵な企画の開催が難しくなっているのが残念で、オンラインでも開催できればよいと思っている。介護施設での講談はとても面白い企画だが、Z o o mより直接面と向かっての方が面白そうなので、時期を見て開催できたらよいと思う。

【委員】それぞれ貴重な皆さんが知りたい勉強したいテーマで、多職種研修を予定されているため、市内の皆さんが様々なケースで協力し乗り越えていけるような連携体制をとっていただけるとよいと思う。いのちの停車場は、まだ日程等開催できるかは分からないが、医療監修に関わって

いる鶴岡先生の貴重なお話等も聞かせていただきながら楽しい会にしていきたい。

【委員】感染が広がりつつあるので、新型コロナウイルスの話が聞けたらよいと思っている。現場でもワクチン接種が始まったが、どうなるのかわからないので、知識として研修で得られたらよいと思う。

【会長】皆さんの感想・意見に感謝したい。続いて、事務局より提案をお願いします。

【事務局】資料4を参照。『在宅療養を考える映画 「いのちの停車場」鑑賞と座談会』企画案について説明する。この映画は2021年春に劇場公開された映画であり、在宅療養を通して人や地域のつながりの尊さについて考えるきっかけづくりにしたいと思い、企画した。映画自体は在宅医療を通して生死に向き合う人々のいのちの物語であり、上映後の鶴岡先生、檜垣先生との座談会では、実際に在宅療養にどのように携わっていらっしゃるか、鶴岡先生が映画監修で感じたこと等の話を伺いたい。日程や開催方法等は、感染状況や市の感染症対策本部の方針等も鑑みて詰めていく。本企画は介護サービス事業者協議会との共催であり、すでに介護サービス事業者協議会の合意は得ているが、本協議会での合意をこの場で得たいと考えている。目的と対象、周知等は掲載のとおりであり、委員の方には周知の協力をお願いしたい。当日は、令和元年度と同様に在宅療養ガイドブックやみまもりキーホルダーを作成し、配布したいと考えている。昼頃より受付を開始し、映画鑑賞と座談会という流れで進行を予定している。委員の方には、当日の会場の誘導等を負担にならない程度にご協力願いたい。

【会長】介護サービス事業者協議会と本協議会の共催という形で実施することに異議のある方はいるか。

【委員】異議なし。

【会長】異議がなければ、事務局の提案のとおり共催で実施する方向で進めていく。委員から当日のお手伝いを2～3名協力願いたい。まだ日程が不明であるため、日程が決まり次第、協力できる方は介護福祉課宛にメールを送付いただきたい。余談だが、「いのちの停車場」の続編があり、南杏子先生が福島新聞、下野新聞などローカル新聞で連載を再開している。吉永小百合さん演じる医師役のその後などが書かれている。

#### 4. その他

【会長】その他について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】各専門部会については医療介護関係者の情報共有（ICT）専門部会を令和4年2月～3月頃に実施予定である。部会の委員へは、日程が決まり次第、連絡予定である。24時間診療体制確保部会についても昨年度は実施できていないため、令和4年度2月～3月頃実施予定である。調整の上、各委員へ連絡予定である。



【会 長】 次回の開催は5月を予定している。これをもって、第3期第4回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会を終了させていただく。